

引返したものでない。
よし田——同郡市田村内。

月舟——前出吉田の人。
句間の「ヨシタ月舟、順女」の七字は

三日 快暑 百句程稽古巻引墨。今日先生飯田行、歸杖無。
風呂有、酒佳。

四日 快晴 辨當付出立。

千鳥庵月舟吟

高遠原 上伊那郡七久保村の内、
日曾リ ヒツナリと讀む。南向村
(上伊那西南端ミナカタ)の西北端。
平火元でこの家焼失。二十餘年
三丸 高坂仙太郎の屋敷。
四里餘 南向村東部山間。大草の東
小川内——ヲガハチ。小松桂雅の家
名。月——同所小松忠藏。
石原——同所、烏孝小松善直の家名
梨の木——同所、風義小松風次郎の家名。
四里餘 高見へ出るには折草峠とい
火打澤——中澤村高見上割、扇風の
家名——北原眞五郎。

青梅や子供の拜む神の前、月舟
はつ雪や發句の會の思ひ付
取遁す手元の闇や飛ほたる 順女

高遠原にて辨當。夜に入日曾り平泊り、夏蠶最中。
五日出立。大草三丸店にて辨當。黄昏四徳小川内泊。
七月六日 米月亭泊馳走。今夜風雨。
七日 晴冷氣 奉燈□堂にて不貞(此文難讀)。石原へ投じ泊
八日 快晴 今朝出立、握り飯持參、梨の木ニ休、晝湯入。
夕刻高見梅月亭へ茶菓子持參。火打澤扇風亭祭り宵馳走。
九日 晴天 祭禮お客種々馳走。

大下——オホシタ、現宮下岳次郎の家名。

米屋——ヨネヤ伊那村鹽田、吐月馬

場伊三郎の家名、酒屋。(二二〇)
丈右——伊那村栗林小池丈衛。この
邊の地名人名前に註す。

十日 後祭り馳走。高見梅月亭茶に預ル。六刻火山大下へ出
泊る。

十一日 鹽田後祭り。米屋へ行馳走。丈右御出、外山田(?)御
客有之。田原昔の家泊。

十二日 快暑 今朝出立。原新田酒井氏へ寄、松本行、留守
押出し寄。原喜撰樓、留守。未刻頃ハツ手光一亭出、御仕着
セ有泊。

十三日 快晴 額書。

十四日 晴 晝前風情(カ)なく退散。鹽原亭泊馳走。晝加治
やにて文十棒の奢り馳走。夜四ツ過原へ歸り。

十五日 屏風書、馳走。晝過原新田出向留守。途中夕立、殿
シマ門屋へ這入雨凌。酒屋にて久友ニ逢馳走うなぎ。山好亭
泊る。

十六日 快晴 下牧酒屋へ寄、有隣亭。宮田丸太藤屋へ親、

此の額の事は前にも注したが、二面
の前半部だけで所謂竄入句十八を數
へ得られる。恐らくかういふ中から
捐物にすべく選抜して書きとめたも
のだらう。(後記ニ参照)
鹽原亭——梅蘭の家。
文十——前出火山峠下の紋十か、或
は手良村向山文四郎の子。
原——梅蘭の居村。
門屋——山好飯島代治の家。逸話に
出て居る、井月を長野でまいた人。
酒屋——加納五聲の家名。

「高坂仙太郎」

(井月全集、下島勲、高津才次郎編、白帝書房、昭和5、国立国会図書館)